



I

観光振興長期基本計画策定の 背景

I. 観光振興長期基本計画策定の背景

I-1. はじめに

政府は、国の成長戦略の一つとして、観光立国の実現に向け様々な取組を進めてきました。その結果、2013（平成 25）年に訪日外国人旅行者数は 1,000 万人を突破し、2016（平成 28）年には 2,400 万人と急増しました。東京オリンピック・パラリンピック開催の 2020 年には、訪日外国人旅行者数 4,000 万人¹ を目標としています。

しかし、訪日外国人旅行者の旅行先は大都市圏に集中する傾向にあり、地方部では人口減少や少子高齢化による地域活力の低下が進み、「地方創生」において観光振興による地域活性化が期待されていますが、外国人観光客受入態勢の整備など、広域連携を含めた多くの課題があります。

そうした中、岐阜県は「岐阜県観光振興プラン」を 2013（平成 25）年 3 月に策定し、宿泊滞在型観光の促進による観光の基幹産業化を目指すとともに、「岐阜県成長・雇用戦略 2017」を 2017（平成 29）年 3 月に改訂し、観光の基幹産業化の一段と強力な推進を位置づけるなど積極的な取組を進めています。

このような背景により、海津市（以下、「本市」という。）においては、2017（平成 29）年度に策定した「海津市第 2 次総合計画」の中で、観光振興についての基本目標を「自然と調和のとれた 賑わいと活力のある まちづくり」を基本目標として、重点施策に位置づけ、新たな観光振興の取組をスタートしたところです。

I-2. 計画の目的

本市は岐阜県の最南端にあり、県庁所在地の岐阜市、政令指定都市である名古屋市と 30km 圏内という東海 3 県の結節点に位置し、西にそびえる養老山地、清らかな水をたたえる 3 つの大河川（揖斐川、長良川、木曽川）に囲まれています。県内でも上位の観光入込客数を誇る国営木曽三川公園・木曽三川公園管理センターやおちよぼさんの愛称で親しまれている千代保稲荷神社を有しており、輪中堤や砂防堰堤といった治水にまつわる史跡や美濃高須藩ゆかりの寺などの歴史文化資源、平田靱負桜（大樽川堤）、津屋川の彼岸花など四季折々の景観が彩る自然資源があります。

¹ 2017（平成 29）年 3 月 観光立国推進基本計画より

この豊かな観光資源を最大限に活用し、「海津市第2次総合計画」で目指す「市内滞在型・周遊観光ルート確立」の実現のためには、総合的・効果的な施策が必要と考えられます。

そのため、2017（平成29）年3月には、海津市観光創生基本計画（以下、「観光創生計画」という。）を策定し、今後の本市の観光振興の基軸となる基本的な考え方を整理するとともに、具体的なアクションプランの必要性・有用性を海津市観光ビジョン（基本構想）としてとりまとめたところです。

この海津市観光振興長期基本計画（以下、本基本計画という。）は、海津市観光ビジョンを基に、本市が目指す望ましい観光振興施策と、これを実現するための中長期の基本的な方向を示すことを目的として策定するものです。

I-3. 計画の位置付け

本基本計画の内容は、上位計画との整合を図ります。以下に、本基本計画の上位・関連計画からみた位置付けを示します。



図 I-1 上位・関連計画からみた位置付け

1) 海津市内における上位・関連計画

本基本計画策定に関連する計画として、「海津市第2次総合計画」、「海津市創生総合戦略」、「観光創生計画」が挙げられます。以下に概要をまとめます。

■ 海津市第2次総合計画

項 目	概 要
趣旨・目的	人口減少・少子高齢化、地域活力の衰退への懸念等の課題を踏まえて未来に向かって歩き続けるために、市が目指す望ましい将来とこれを実現するためのまちづくりの基本的な方向を示す
計画期間	2017（平成29）年度～2026（平成38）年度 10年間 （アクションプランの計画期間は3年間とし毎年見直し）
コンセプト 将来像等	水と緑と人がきらめく 輪でつながるまち 海津
基本目標	①だれもが健康で 笑顔あふれる まちづくり【医療・保健・福祉】 ②安全で快適な 住み良い まちづくり【都市基盤・防災・環境】 ③個性と創造性を培う ところ豊かな まちづくり【文化・教育】 ④自然と調和のとれた にぎわいと活力のある まちづくり【産業・雇用】 ⑤協働による 自主的・自立的な まちづくり【協働・行財政】

■ 海津市創生総合戦略

項 目	概 要
趣旨・目的	本市の特性に配慮し、定住・移住の促進、出産・子育て支援の推進を行い、人口の減少を抑え活気あるまちづくりを進める
計画期間	2015（平成27）年度～2019（平成31）年度 5年間
コンセプト 将来像等	—
基本目標	①まちの魅力の向上、産業振興による定住人口の増加 【移住定住・農林業・産業・教育・文化芸術】 ②海津ブランドの構築と観光振興による交流人口の増加 【観光・販路開拓・スポーツ・地域間交流】 ③子育て世代が安心して暮らせる地域づくり 【出会い、結婚、出産、子育て・ワークライフバランス】 ④地域で連携して防災や高齢者対策等に取り組む、生涯を通じて 安心な暮らしを守る地域づくり【暮らしの安心安全・福祉、医療】

■ 海津市観光創生基本計画

項 目	概 要
趣旨・目的	観光振興を具体的に進めていくための基本構想として、直近2年間で実施する観光振興施策の具体的事業及びその必要性・有用性について整理する
計画期間	2017（平成29）年度～2018（平成30）年度 2年間
コンセプト 将来像等	木曽三川のしぼりたてーかいづー みんなの笑顔こそ みんなの海津ブランド
施 策	①長期的観光振興計画策定 ②東海環状自動車道（仮称）海津スマートインターチェンジ（以下「海津スマートIC」という）を活用した地域内周遊の促進 ③2年間にわたる集中投資

2) 岐阜県

岐阜県は、2013（平成25）年3月に「岐阜県観光振興プラン」を策定しており、その中で美しい自然、伝統文化、食、モノ等、全国に誇れる資源を最大限活用し、岐阜県でしか味わうことができない「高品質」かつ「本物」の魅力を満喫し心身ともに癒される新たな宿泊滞在型の旅のスタイル「ぎふウェルネス・ツーリズム」を創出するとしています。また、この観光振興プランは、施策の展開の第2ステージにあたり、2018年度からは岐阜ならではの宿泊滞在型観光の定番化を図る第3ステージとしています。

■ 岐阜県観光振興プラン

項 目	概 要
趣旨・目的	「みんなでつくろう観光王国飛騨・美濃条例（2007年）」第16条第1項に基づいて策定された第1期計画が、平成24（2012）年度で満了することに伴い新たに次期計画を策定し、引き続き観光振興を進めていく
計画期間	2013（平成25）年度～2017（平成29）年度 5年間
目指す姿	岐阜県ならではの「高品質」かつ「本物」の魅力を凝縮した『宿泊滞在型観光』の促進による観光産業の基幹産業化
施 策	①観光資源の掘り起こしとブランディング （2008（平成20）年度～2012（平成24）年度） ②宿泊滞在型観光への本格展開 （2013（平成25）年度～2017（平成29）年度） 1）地域特性を活かした宿泊滞在型観光地『清流の国 ぎふ観光回廊』づくり 2）大都市圏をメインターゲットとした国内誘客の促進 3）海外の動向を踏まえた誘客戦略の展開 ③岐阜ならではの宿泊滞在型観光の定番化 （2018（平成30）年度～）

I-4. 計画期間

本基本計画の計画期間は、2018（平成30）年度から、2027年度までの10年間とします。

